拘留七日　篠原良一　當十九年
〃十日　應援　綿引達吉　當二十二年
〃七日　争議団長　齋藤常太郎　當四十八年
〃十日　争議団員　山本鉄藏　當三十年
〃〃　〃　小倉粂藏　當三十六年
〃〃　〃　工藤清　當二十九年

前記ノ如ク拘留ニ處シ引續キ取調中ナルカ尚被疑者トシテ
東金大島分會長　管　捻
争議団警備隊長　小川伊勢四郎
仝　警備班長　園治兵衛
ハ事件後逃走シ所在不明ニ　近中ナリ
右及申（通）報候也

別記(1)

争議日報

No. 30.
1930.9.4

大島製鋼争議団
本部発行

警察氣が狂ふ

昨日も砂町署では何を見つたものか多くの署の應援迄まで駆り出して、續々と工場の中へ這入り込み工場前にピケを張り、争議団でも平常より多くの見張りをかき、沢山の者を隠して伏せて厳戒した。

そして自動車で争議団員本部途中の若君を検束し、桜の九時にブタ箱へ入れた。

何んのために、こんな馬鹿なまねをやるのか、俺達と喧嘩を売るためなのかな。面白い、やつてみようではないか、俺達はトトウの

俺達は大島製鋼でストライキをやって居るのだが、大川をやっつけなければ勝つ事は出来ない。大川をやっつけるためには、大島製鋼だけと喧嘩して居たのでは埒があかない。

どうしても大川の全事業の破壊を起させなければ駄目だ。

幸いなるかな大川系統事業のうちで大島製鋼と同様の事業と近親にある事業ありて手をつけて行くのだ。

恐らく大川の金融信用力とを奪かなる何人を以って為めて了ふのだ。然し為らなければ、大川の金融を一切破壊してしまうまでだ。昭和二年の銀行取付を覚えて居るだらう、日本の金融恐慌前には沢山の銀行があった大川が検束大きなボロをついて行けば財界は忽ち混乱してしまう。

俺達の重要な戦術は先づ大川系事業をつく事だ。大川に対立する一切の勢力を動かして戦線に立たせよう。